

### 平成28年度施政方針について

伊藤 勝美



〔質問〕本市における地域経済の実態を、どのように捉えているのか伺う。

〔答弁〕【市長】基幹産業である製造業・運輸業及び農林水産業を含め、市内総生産が減少している。

特に、人口減少により地域経済の消費市場規模の縮小が見られる厳しい経済状況にあると認識している。

〔質問〕「インフラ長寿命化計画」における下水道整備、農業集落排水施設整備、合併浄化槽整備の計画について、今後の白石市の人口将来推計と上水道・下水処理計画人口との整合性はどのように捉えているのか。また、

今後の整備の見通しについて伺う。

〔答弁〕【市長】市の人口ビジョンを踏まえ計画をしていきたい。

また、市街地の水道施設等の老朽化が課題であることから、更新工事を進めている。

〔質問〕これからの社会は、さまざまな分野でグローバル化・国際化が進展すると考える。

そこで、白石の将来のある子どもたちにとって、英語教育は欠かせないと考えるが、現在の英語教育活動の推進と今後の取り組みについて伺う。

〔答弁〕【教育長】早期に英語教育の環境を整備するため、現在、外国語指導助手(ALT)3名で、中学校・小学校・幼稚園・保育園に行き活動している。

今後は小学校にALTを3名増員することで、中学校の英語教育におけるALTの活用の実践が図れると考える。

〔質問〕公立刈田総合病院における分娩がなくなるのとのだが、市長の所見と市民への早期の周知が必要ではないかと考えるがいかがか。

〔答弁〕【市長】刈田病院では、今年5月から「産科セミオープンシステム」を採用すると聞いている。

これは、産科がなくなるわけではなく、妊婦健診などを引き続き行うことにより、産科医療の一部の役割を担い、より安全な分娩を目指すものである。

市民への周知については、4月に刈田病院の広報誌「かつたほつとぶれす」で、5月には「広報しろいし」で周知を図っていく予定である。

〔その他の質問〕  
◎携帯・スマホについて

### 市内の東北自動車道にスマートインターを設置する件について

保科 善一郎



〔質問〕本市の高速道路のインターチェンジは、市の最北端にある。

次のインターチェンジまでの間隔が長いと、通過地域にストロー効果と呼ばれる過疎化現象が発生するとも言われている。

白石市の南部地域にスマートインターを設置することで、本市の幅のある開発と高速道路を起点とした地域連携が活発になり、仙南地域の産業振興の起爆剤になり得ると考える。

最近、地方創生と地域活性化のため、スマートインターチェンジや道の駅などの整備に着手する自治体が増えてきている。

スマートインターの設置を考える時期と思うが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】これまでも、スマートインターチェンジを高速道路ネットワークの有効活用と地域活性化施策の柱として、積極的に推進すべきであり、十分に検討・計画をすべきであると答弁してきた。

スマートインターチェンジ整備事業実施要綱の改正が今なされたところで、このことからスマートインターチェンジの整備に当たっては、十分な社会便益が得られることなどの要件を満たす必要がある。また、国・県などによる地区協議会を設置し、検討調整と実施計画書を作成し、国からその必要性が認められて新規事業化となる。

これらの状況を踏まえて、設置について慎重に検討していきたい。

〔質問〕最近、村田町や常磐道でも設置を決めているところがある。

本市でも優先度が高いと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】スマートインターの設置については、白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略施策としては位置づけしていない。

〔質問〕国から示された要綱によると、サービスエリアでなく直結型も提案されており、費用についても地元負担が少ないような整備も可能である。

このことから、推進する時期と考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】設置場所とその活用方法が重要と考える。要綱も変わってきているので、検討できるところは検討していきたい。